

令和 5 年度

教職課程
自己点検評価報告書

岡崎女子大学

令和 6 年 3 月

岡崎女子大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・子ども教育学部子ども教育学科

大学としての全体評価

岡崎女子大学は、建学の精神「自己実現と社会貢献」を礎に、「自分の頭で考え、自分の心で感じ、自分の言葉や行動で表現する」という自律的な学習態度を通して学生が現代に生きる女性としての知恵と知識を獲得し、人間的な成長と目標の実現を目指している。本学には、子ども教育学部子ども教育学科があり、小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状が取得できる。

令和4年度より岡崎女子大学教職課程委員会を設置し、教学部長兼LO、学部長、学科長、学科担当教員を中心に構成された委員により、教職課程の最新の動向や研修の共有を行いながら、教職課程の質の保証、向上に取り組んできた。教職課程委員会で審議された内容は子ども教育学科の学科会議で報告され、育成を目指す教師（保育者）像の点検を行うなど、教職課程委員会と学科で連携しながら教職課程を運営している。

本学における教員養成は、カリキュラムや授業担当者、教育実習、免許取得の手続き等の具体的な指導に関しては教務委員会が、課外活動や学外ボランティアに関しては学生委員会が、就職指導やキャリア支援に関してはキャリア支援委員会が組織され、各学科より委員が選出されているほか、それぞれ教務課、学生支援課、キャリア支援課の職員が事務に当たり、教職協働しながら学生支援にあたっている。

岡崎女子大学
学長 春日 規克

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの自己点検評価	
	基準領域 1	2
	基準領域 2	6
	基準領域 3	10
III	総合評価	14
IV	教職課程自己点検評価報告書作成のプロセス	15
V	現況基礎データ一覧	16

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名：岡崎女子大学子ども教育学部

(2) 所在地：愛知県岡崎市中町 1-8-4

(3) 学生数及び教員数（令和 5 年 5 月 1 日現在）

学生数：教職課程履修 271 名／学部全体 271 名

教員数：教職課程科目（教職・教科とも）担当 15 名／学部全体 2 名

2 特色

岡崎女子大学（以下、本学）は、岡崎女子短期大学（昭和 40 年開学）との併設形式で平成 25（2013）年 4 月、建学の精神「自己実現と社会貢献」のもと、女性の生き方への真摯な探究を通じた人格形成を目指すとともに、専門の学術を研究教授することにより、社会の発展に貢献し得る女性職業人を育成することを目的として開学した教育・保育系の単科大学である。

同年 4 月、幼稚園教諭・保育士の養成を行う子ども教育学部子ども教育学科を設置、平成 28（2016）年度には小学校教員免許教職課程の認可を受けた。

このように、本学の最大の特色は「教員養成」を重要な教育上の目的としていることであり、専門分野の確かな知識・技能を獲得し、職業人としての高い使命感と倫理観を持ち、理想の実現に向けて努力しうる専門的職業人、自律的な学修態度と知的探究心を持ち、実践の中から課題解決の糸口を見出して、他者との協働関係の中で社会に貢献していける指導的人材の育成を目指した教職課程を含む教育課程を編成している。

現在は、教職員連携した体制のもと教育現場で求められ、社会の発展に貢献し得る女性職業人（幼稚園教諭、小学校教諭）を養成している。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

本学は小学校教諭及び保育者（幼稚園教諭・保育士）を養成する大学であり、建学の精神、大学の教育目的（学則第 1 条）のもと、「大学が養成する人材像」として、「Ⅰ 深い人間理解と共感力を備えた品格ある女性の育成（人間力）」「Ⅱ 高い使命感と倫理観を持つ専門的職業人の育成（専門力）」「Ⅲ 知的探究心と実践力を持ち、社会を支える指導的人材の育成（課題探究力・地域貢献力）」と定め、明示している。

また、本学の教員養成の理念は、建学の精神のもと、現代人としての教養と教育分野の豊かな専門知識・技能をもち、子どもや保護者への共感力をもつとともに、高い使命感と倫理観に基づいて現代の教育現場のニーズに応じていける小学校教諭・幼稚園教諭を養成することである。本学は「教員養成」を重要な教育上の目的として設置されたものであることから、本学の教員養成の理念（教職課程教育の目的・目標）は、大学の教育目的に基づき定められた学部の教育目的と同じである。

学部の教育目標は、「1) 現代人としての教養と豊かなコミュニケーション能力の育成（人間力）」「2) 専門職としての確かな知識と技能を持ち、教育・保育現場の現代的ニーズに対応しうる小学校教諭・幼稚園教諭・保育教諭・保育士の養成（専門力）」「3) 自律的学習態度・課題探究能力の育成（課題探究能力）」「4) 教育・保育分野における実践知と地域貢献力の育成（実践力・地域貢献力）」である。

この理念及び全学ディプロマポリシー（以下：DP）を踏まえ、学部 DP を定めている。また、「学部で獲得する力」や「学力の 3 要素」と学部 DP の関係を表し、これらを、Web サイト（ホームページ）、大学案内（パンフレット）に掲載し、学外へ広く周知している。また、履修要項に明記して教職員・学生に示すとともに、専任教員と非常勤講師が集う講師懇談会や学科会議において教員間で共有し、新入生オリエンテーションにおいて、学生に周知して理解を諮っている。これらを受け、各教員は学部 DP 及びカリキュラムポリシー（以下：CP）を踏まえて、シラバスに「授業の目的」「授業の到達目標」を明示している。

なお、学部の三方針、教育課程、教職課程については、学部のアセスメントポリシーに基づき評価された学修成果などから、学科会議や教務委員会、教職課程については教職課程委員会がそれぞれ点検を行っている。

〔長所・特色〕

本学は、「教員養成」を重要な教育上の目的として設置されたものであることから、現場経験が豊富な教員を複数名配置しており、小学校教諭・幼稚園教諭に必要な知識・技能を育むための授業を実施している。また、「教員養成の目標」及び各学年・各期における「小学校教諭一種免許状の各段階における到達の目標」「幼稚園教諭一種免許状の各段階における到達の目標」、「教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組」を定め Web サイトで公表している。

本学では、卒業生の就職先を教員が訪問して、卒業生及び卒業生の就職先の所属長に対し、「大学で学んだ能力の活用度」についてアンケート調査を実施している。その肯定回答率は、卒業生（令和 5 年 3 月卒業）の肯定回答率は専門知識 84.0%、技能 84.0%、考え方

72.0%、人間関係 62.5%、所属長の肯定回答率は専門知識 86.8%、技能 77.5%、考え方 69.2%、人間関係 77.5%であった。これらは学修成果の可視化及び点検評価につながる本学の独自の取り組みであり、教職課程の点検にも活用している。

〔取り組み上の課題〕

建学の精神、大学の教育目的をもとに定められた「大学が養成する人材像」が教職員や学生に確実に認知されるように努める。具体的には、学部 DP に基づく学修成果を明確に示すこと、学生自身が把握できるようにすること、アセスメントポリシーに基づいた点検・評価結果をフィードバックすることが課題である。

<根拠となる資料・データ>

- ・資料 1-1-1：岡崎女子大学 令和 5 年度 履修要項
- ・資料 1-1-2：岡崎女子大学 令和 5 年度 シラバス
- ・資料 1-1-3：岡崎女子大学 令和 4 年度 卒業生へのアンケート調査
- ・資料 1-1-4：岡崎女子大学 令和 4 年度 卒業生の就職先の所属長へのアンケート調査

基準項目 1－2 教職課程に関わる組織的工夫

〔現状説明〕

本学では、小学校教諭・幼稚園教諭等養成のための職業教育を行い、専門分野に関する学生の知識・技能を深め、研究活動を支援するために、十分な教育研究業績を有する教員の配置をしている。

主に実技・実習科目等を担当する実務家教員と研究者教員のバランスにも配慮している。令和5(2023)年度は、教職課程を担当する15人のうち小学校教諭免許においては10人、幼稚園教諭免許においては8人の教員を配置している。

本学では、クラス指導主任制(1、2年生)、ゼミ担当制(3、4年)を採っており、日常的に学生指導・学生支援を行っている。また、各教員はオフィスアワーを設定し、授業内容に質問がある学生に対し適切に対応しており、これらの情報は必要に応じて学科会議で共有されている。

また、教員と事務職員が協働して多角的な学生支援体制を整えており、学生委員会では学生相談や学生相談、実習委員会では教務課内に配置した実習支援室と連携し、教育実習及び介護等体験等の実習に関する学外関係機関との連絡調整、実習に向けたガイダンス、実習中の学生対応、実習の成績評価について適切に対応している。

教職課程を含む教育課程全般の管理・運営を行うために教務委員会が設置されており、さらに、令和4(2022)年度より、教職課程に特化した自己点検・評価や、実施について協議や検討を行う組織として、学部長、学科長、教学部長、教職科目担当教員、事務職員で構成される教職課程委員会を設置し、他の委員会や組織と連携しながら教職課程の運営や学生指導を実施している。

これらの学部、委員会の組織的な取り組みに加え、教育の質的向上を目的としてFD委員会がFD研修会を実施したり、教員相互の授業参観、学生による授業アンケート、ルーブリックによる授業評価を実施し、その結果を授業改善に生かしたりする取り組みを行っている。その他、SD委員会や人権問題委員会による学内研修会も実施され、教職課程を実施するための全学的な資質向上を行っている。

教職課程教育を行う上での施設・設備として、講義室、SKホール、ピアノ室、ゼミ室、パソコン室、美術室、小体育室、大体育室、ラーニング・プラザ、図書室、hyggeエリア、自修室、グラウンド、テニスコートを整備し、有効に活用している。また、教職支援室には教職課程の学修や教員採用試験対策関係の資料を配備し、資料の閲覧、自修等ができるようになっているほか、令和5(2023)年12月には、より質の高い学修が展開できるように、実際の小学校の学級教室を再現した「模擬授業演習室」、一般的な保育室を再現した「保育演習室」を設置するなど、更なる教育環境の充実を図っている。

〔長所・特色〕

本学は、小学校教諭・幼稚園教諭等を養成する大学であり、実習科目群、専門演習科目群や研究科目群に関しては、原則として教職課程を熟知した専任教員が担当している。実習中の巡回指導は学科教員全員で分担する等、学科として小学校教諭・幼稚園教諭等を目指す学生の支援を行っている。教職支援室では、学生からの学修や採用試験等の相談に対応できる体制が採られている。

本学園は幼稚園(3園)と幼保連携型認定こども園(1園)を設置・運営しており、授業や実習等を通して、実践的に学修できる環境にある。また、市教育委員会や近隣の小学校と連携し、近隣の小学校の先生を招いて授業を行ったり、小学校に出向いて授業を見学し

たりするなどの取り組みをしている。

全学生に対し、メールアドレス、授業の休講・補講や成績を配信する「OW ポータル」、学習管理システムとしての「Webclass」、Microsoft 社の「Office365」のアカウントを発行し、学内には Wi-Fi 環境（無線 LAN）整備し、有効に活用している。

ICT 教育について、パソコン教室や貸出用 PC といった施設・設備の整備だけでなく、情報機器を用いる授業を円滑に運用できるように情報メディアセンターに専門職員を配置し、授業において支援ができるよう人的な面も整備している。

また、ピアノ練習室やラーニング・プラザ、図書室、自修室などの学修施設は、授業で使用していないときには、個人でいつでも利用することが可能であり、アクティブ・ラーニングを推進する環境を整備している。

〔取り組み上の課題〕

小学校教諭、幼稚園教諭を目指す全ての学生が教職課程を修めることができるように、の教職協働で取り組む。現在は、全ての授業科目で学生の学修状況を把握し、学科会議等で共有を図っているが、教務課やキャリア支援課、学生支援課（保健室）の情報も確実に、共有する体制づくりが課題である。

パソコン教室、Wi-Fi など ICT 環境の整備されてきているが、近年、注目を集めている生成系 AI の活用方法や注意を払うべき点について理解を深めるための情報リテラシー教育を、教職員、学生に対し行っていくことが課題である。

＜根拠となる資料・データ＞

- ・資料 1-2-1：岡崎女子大学 教職課程委員会規程
- ・資料 1-2-2：岡崎女子大学 令和 5 年度 FD 活動報告書

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

教職を担うべき適切な学生の確保に向け、本学が定めたアドミッションポリシー（以下：AP）は、Web サイトや大学案内、入学試験要項に示されている。また、オープンキャンパスや各種ガイダンス、高大連携協定を締結している高校との懇談会等においても説明している。入学試験においては、多様な人材の中から、AP に示される資質・能力を有する入学者を選抜するため、様々な入試を行い、評価指標を設け適切な学生を確保している。

また、入学前教育にも力を入れ、教職への意識を涵養している。入学直後の新生オリエンテーションや学科行事において、履修要項に基づき小学校教諭・幼稚園教諭の免許取得のための要件を説明している。学生は、各学期末に「学修の記録（履修カルテ）」に単位の取得状況、「教育者・保育者に求められる資質能力の自己評価」を記すことにより、学修成果の可視化と、目指す教師像の確認が行えるようにしている。

〔長所・特色〕

本学では、2 年次より「学校教育コース」「幼児教育・保育コース」に分属されるため、自己の進路に合致し、過剰な負荷がかからない適切な履修状況が確保されている。また、3 年次から全ての学生が専門ゼミナールに配属され、教職について深い理解と高い専門性を有する教員と少人数の学生で学びを深め、卒業研究に取り組んでいる。

また、小学校教諭・幼稚園教諭の免許取得に必要な実習に加え、「地域貢献とボランティア」の授業では教育現場や福祉現場でのボランティア実践、インクルーシブ教育士（学内認定資格）資格取得のためのインクルーシブ教育実習、長期的な視野をもって子どもと関わる長期フィールド実習など、実践力を備えた小学校教諭・幼稚園教諭を育成するための実習を行っている。

〔取り組み上の課題〕

授業や実習を進める中で、小学校教諭・幼稚園教諭を諦める学生がいる。また、精神疾患など特別な配慮を要する学生が増加している傾向にあるため、1 人ひとりに即した適切な指導が求められている。その 1 つとして、学生の申請により合理的配慮を提供しているが、配慮内容の迅速な決定、それに基づく適切な指導を行い、本人に不利がないように修学を継続できるようにすることが課題である。

また、本学では各学期末に「学修の記録（履修カルテ）」を用いて、学修成果を把握・点検しているが、学生自身が「何を学び、何ができるか」を説明できることが求められている。その 1 つとして、現在導入している LMS（Webclass）を活用し、日常的に学修成果の可視化ができるようにするシステムづくりが課題である。

< 根拠となる資料・データ >

- ・資料 2-1-1：岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 Web サイト
<https://beautiful.okazaki.ac.jp/>
- ・資料 2-1-2：岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 大学案内

- ・資料2-1-3：岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 2023年度（令和6年度）入学試験要項
- ・資料2-1-4：岡崎女子大学 令和5年度 履修要項
- ・資料2-1-5：岡崎女子大学 「学修の記録（履修カルテ）」

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

本学の教職へのキャリア支援については、専任教員とキャリア支援課職員が、キャリア支援委員会を組織し、非常勤のキャリアカウンセラーとともに連携・協力しながら実施している。キャリア支援課内には、求人票などの資料を整備し、いつでも閲覧できる環境を整えている。また、1・2年次には、クラス指導主任が学生生活の全般をサポートの一環として、入学直後から、学校教育コースと幼児教育・保育コースの分属の指導と助言など進路の支援をしている。3・4年次は、ゼミ担当教員がキャリア支援課職員と連携し、進路調査カードの記入、受験先のアドバイス、履歴書（志望理由）の添削などの支援を行っている。

一方で、キャリア支援課では、1年次より進路ガイダンスを実施し、2・3年次においては、公務員試験合格支援講座等を企画・実施している。また、キャリア支援課には常に求人情報を提供し、細かい丁寧な個別指導を行っている。特に小学校教員を目指す学生に対して、学校教育コース担当教員を中心とした「オータムセミナー」「スプリングセミナー」「採用試験対策講座」「基礎力アップ！月例講座」などの支援が重点的に行われる体制が整えられている。

令和6（2024）年3月の卒業生数92名のうち、就職希望者数は89名、学校・保育所・幼稚園・認定こども園などの専門職への就職者は81名（96.7%）であり、専門職に就職している。また、教員免許取得人数は小学校教諭一種免許状23名（100%）、幼稚園教諭一種免許状85名（92.4%）である。小学校の教員就職者数は、17名（正規採用8名、常勤採用9名）であった。幼稚園・幼保連携型認定こども園への就職者数は23名である。

〔長所・特色〕

単科大学の強みとして、教育職、保育職への就職支援に専念でき、手厚いキャリア支援が可能となっている。特に公務員に就職を希望する学生のための講座・面接指導が3・4年次に集中的に実施されており、公務員就職率の高さに寄与している。また、OGを招いた交流会（リエゾン陽だまりカフェ）や、教育委員会や市町村の人事課職員を招いて説明を受ける機会を設け、就職への動機づけを提供し、専門職への就職を後押ししている。

小学校への就職については、キャリア支援課の提供する従来からのプログラムに加え、学校教育コース専門科目担当教員を中心とした前述の講座等の丁寧な指導が行われているため、学校教育コースの全学生が小学校教員免許を取得し、そのうちの多くが小学校へ就職している。

〔取り組み上の課題〕

教員採用試験の前学年への前倒しや、公務員（保育職）試験の早期化に伴い、学修半ばで就職試験に臨まなければならない、学修機会の確保が求められている。一方で就職支援活動の改革・充実も必要である。その1つとして、入学直後から教職協働によるキャリア教育を継続的に実施して、教職課程と採用試験対策を並行して取り組むことができるような体制づくりが課題である。

<根拠となる資料・データ>

- ・資料2-2-1 : 岡崎女子大学 令和5年度「キャリアアップ講座」開催案内
- ・資料2-2-2 : 岡崎女子大学 令和5年度 進路希望調査(1年生対象1~3回分)
- ・資料2-2-3 : 岡崎女子大学 令和5年度「公務員セミナー、オータムセミナー、スプリングセミナー、基礎力アップ!月例講座、採用試験対策講座」開催案内
- ・資料2-2-4 : 岡崎女子大学 令和5年度「リエゾン陽だまりカフェ~卒業生による仕事の魅力説明会~」開催案内

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

先に述べた本学における教員養成の理念及びその教育目標を達成するよう学部 CP に基づき、教育課程が編成されている。その教育課程はアセスメントポリシーに基づく学修成果の点検・評価結果や学修状況アンケート、学生による授業アンケートなどから定期的に点検を行っている。

また、シラバス作成依頼の際に、教職課程コアカリキュラム等関係資料を配付・周知している。各教科の指導法等において、デジタルテキストを活用した授業展開を進めるとともに、アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫もなされ、課題発見や課題解決等の力量を育成している。「教育の方法と技術（ICT活用を含む）」では、教職課程コアカリキュラムをふまえた授業の実践事例を紹介し実際の授業展開について検討している。Wi-Fi や有線 LAN が整備されている教室を「教育の方法と技術（ICT活用を含む）」や「各教科の指導法」に優先的に配置し、ICT を活用した授業展開の促進をしている。

〔長所・特色〕

単位制度の実質化については、シラバスの「授業計画表」に各回授業の内容と予習・復習内容を示し、「自修について（予習・復習・学生へのフィードバックの方法等）」に単位数に応じた予習・復習の時間数と配分を示している。また、履修登録上の上限の単位数の基準を 48 単位とし、単位制度の実質化を行っている。

履修に関する指導については、毎学年末に行う履修ガイダンスにおいて学生に周知し、学生自身が履修計画を立てるように指導するとともに、教務課窓口において随時相談を受け付けている。また上限単位数以上に履修登録した学生等修正が必要な学生については、個別に履修指導を行っている。

成績評価の方法及び基準の明確化については、全学的な方針のもとで実施し、シラバスに明記している。成績評価の厳格な適用については、基本的に各教員に委ねられているが、同一科目を複数の教員で担当する場合は、協議し適正な評価を行っている。GPA については、履修登録総単位数に不合格科目の単位数を含めて算出しており、学内の各種選考や学修面談等における指標として活用している。また、履修登録済みの科目の取り消しについては、前期後期ともに登録後修正期間を設け、取り消し科目は GPA 算出対象とはせず、学生の利益に配慮している。

学生は 2 年次から 2 つのコースに分属されるが、「学校教育コース」へのコース申請の際、また全ての学外実習参加の際には、一定の GPA の基準値を設けている。また教育実習の参加要件となる授業科目のほとんどが教育職、保育職の資格取得や専門職への就職に不可欠な科目であることから、コース所属成績要件や実習参加要件が学生の実質的な成績下限の目安としての役割を持っている。

令和 5 年度に設置した模擬授業演習室では、電子黒板とタブレットを常設した ICT 環境のもと、デジタル教科書を用いた模擬授業を実践している。模擬授業では、一人の学生が教師役、他の学生が児童役を務め、実際の授業展開を想定しながら実践的授業力を高めている。

〔取り組み上の課題〕

本学では、教員養成の理念及びその教育目標の達成を具現化する特色ある教職課程を設置している。また、履修カルテを用いて、学生1人ひとりが卒業や免許・資格取得に必要な単位の修得状況の把握・点検を行っているが、DPの達成状況を明確に把握することが求められている。その1つとして、学部DPの達成度を適切に評価する「DPルーブリック」の作成とその運用が課題である。

＜根拠となる資料・データ＞

- ・資料3-1-1：岡崎女子大学 令和5年度 履修要項
- ・資料3-1-2：岡崎女子大学 令和5年度 シラバス
- ・資料3-1-3：岡崎女子大学 令和5年度 学生GPA一覧表、GPA分布図
- ・資料3-1-4：岡崎女子大学 令和5年度 学修状況アンケート
- ・資料3-1-5：岡崎女子大学 令和5年度 学生による授業アンケート

基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

〔現状説明〕

学部 CP に従い、授業内でのグループ討議、グループ活動や参加型の学外活動等を実施している他、授業での学びを学部全体で取り組む「子ども教育フォーラム」や「丘の上の音楽会」等で学修発表に繋ぐことにより、学生の主体的な学びを引き出す工夫を行っている。学生が自ら深く考え、工夫し、実際に体験して、周囲と協働しつつ問題解決に向かい、学びのプロセスと成果を認識しうる学修の場作りを企図している。

教員一人当たりの学生数比率（ST比）が低いこともあり、少人数教育による細やかな指導が実現している。特に3・4年生が履修する「専門ゼミナールⅠ～Ⅳ」では1人の教員の担当学生は原則8人以下となっており、卒業研究、長期フィールド実習等の研究科目の学修における学生の達成度と満足度の高さに繋がっている。

〔長所・特色〕

1年後期開講の「地域貢献とボランティア」（教養科目）は、建学の精神「自己実現と社会貢献」に繋がる実践的科目である。学生が地域に出て多様なボランティア体験に取り組むことにより、学内での学びをさらに豊かにすることを目的としている。教育職・保育職志望の学生にとっては免許及び資格取得のための実習を行う前に、小学校・幼稚園・認定こども園等で子どもの生活に直接触れることのできる貴重な機会となる。学生が自己の進路選択へのヒントや見通しを得て、自己の適性に合った教職コースを2年次に選択し得る助けとなっている。

2年次に「幼児教育・保育コース」に進んで、幼稚園教諭一種免許状取得を目指す学生は、学内認定資格である「インクルーシブ教育士」を取得することが可能である。それには実習も課されており、障害児や外国にルーツを持つ子ども等に対する学びを深めることもできる。

4年通年開講の「長期フィールド実習」（専門科目）は、多くの実習時間を確保することにより学生の教職経験の質を高めることを目的としている。「長期フィールド実習」は、約8ヶ月に及ぶ長期間の現場実習（週1回・通年180時間）である。実際に小学校・幼稚園・認定こども園等で子どもと関わり、指導者の補助をすることにより、教育者・保育者という専門的な職業について、実践を通して理解する。そして実習後は、実習について大学で振り返り、さらに教育者・保育者になるために必要な学びを明確にし、その後の授業に取り組んでいく。長期に渡る教育現場での実習は多くの学びの場となり、大きな成長にもつながっている。

大学及び実習支援室と市町村や教育委員会との連携により、教育実習生を受け入れていただいている。小学校の実習先は、愛知県内の場合は県内私立大学で構成されている協議会を通して、学生の出身市町村教育委員会が母校以外の配属先を決定する。愛知県外の場合は、学生の母校（管轄教育委員会）に直接依頼をして実習を行う。幼稚園の実習先については、名古屋市の場合は小学校と同じ方法で決定されるが、他の市町村は県内養成校が加盟している協議会において調整され決定される。

〔取り組み上の課題〕

教職課程を修め、深く教育現場を理解するために、専門性の高い授業、豊富な学外実習、地域・福祉現場でのボランティア実践を行い、理論と実践を往還させた教育を実践してい

る。また特に、「学校教育コース」における小学校教諭一種免許状取得率は100%と非常に高く、小学校教員としての就職率も高いことが本学の特長である。今後は本学での学びが教育・保育現場でどのように生かされているかを把握し、教育課程の検討が求められる。その1つとして、現在行っている「卒業生へのアンケート調査」「卒業生の就職先の所属長へのアンケート調査」の他にも、市役所、教育委員会などのステークホルダーを対象にアンケート調査を行うなどして、実践的指導力の修得の程度を把握し、教職課程に反映させる体制づくりが課題である。

また、今後は小学校への就職者数を増やしていくことを目指し、さらに教職の魅力を伝える有効な手立てを講じることも検討していく。

<根拠となる資料・データ>

- ・資料3-2-1：岡崎女子大学 令和5年度 シラバス
- ・資料3-2-2：岡崎女子大学 令和5年度 「子ども教育フォーラム」プログラム
- ・資料3-2-3：岡崎女子大学 令和5年度 「丘の上の音楽会」プログラム
- ・資料3-2-4：岡崎女子大学 令和5年度 「専門ゼミナールⅠ」配当表
- ・資料3-2-5：岡崎女子大学 令和5年度 学生による授業アンケート
- ・資料3-2-6：岡崎女子大学 令和5年度 卒業研究成績
- ・資料3-2-7：岡崎女子大学 令和5年度授業「地域貢献とボランティア」の「活動報告会」プログラム
- ・資料3-2-8：岡崎女子大学 令和5年度 進路状況一覧
- ・資料3-2-9：岡崎女子大学 令和5年度「長期フィールド実習の手引き」
- ・資料3-2-10：岡崎女子大学 令和5年度「教育実習Ⅱ（小）」実習校一覧
- ・資料3-2-11：岡崎女子大学 令和5年度「教育実習Ⅱ（幼）」実習園一覧

Ⅲ. 総合評価

本学では、「教職課程委員会」を設置し、教職課程の在り方を恒常的に自己点検・評価している。

「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」においては、教職課程の目的・目標を DP 及び CP 等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学内外に周知しており、その実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。また、教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。さらには、教職課程教育を行う上での施設・設備の整備も行っている。

今後は、建学の精神、大学の教育目的をもとに定められた「大学が養成する人材像」が教職員や学生に確実に認知されるように努めること、令和の日本型教育を構築するために、ICT 教育に関して、生成系 AI の使用など情報リテラシー教育の充実を図る。

「学生の確保・指導・キャリア支援」においては、建学の精神、教育理念を反映する教職課程で学んでほしい学生を募集・選考をしているが、教育・幼児教育に特化した大学として、さらに広報活動を行っていく。また、学生の教職に対する意欲や適性を把握し、学生のニーズや学修状況に応じたきめ細かな指導を行い、教職に就くための各種情報を適切に提供している。さらに、教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をし、キャリア教育を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。

今後は、学生の教職に対する意欲を維持・向上させるとともに、教員採用試験の早期化に伴い、学修機会を確保しつつ就職支援活動の改革・充実を図っていく。

「適切な教職課程カリキュラム」について、建学の精神を具現する教員養成を行っており、学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、適切な教職課程カリキュラムを編成し、その実施にあたり、ICT 機器の活用、アクティブ・ラーニングやグループワーク等の工夫がなされている。教育実習を行う上では、履修条件を設定し、教育実習を実りあるものになるように指導を行うとともに、学修の記録を蓄積し、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」等の指導に活かしている。取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を養成する機会を設定し、介護等体験やボランティア、本学独自の実習等様々な体験活動とその振り返りの機会を設けている。また、学生が地域の子どもの実態や、学校教育実践の最新の情報について理解し、教職に就く不安を払拭するための機会を設けるとともに、教育委員会や地域の学校との組織的な連携協力体制を構築している。

今後は、学部 DP の達成度を適切に評価するための「DP ルーブリック」の作成・運用と、ステークホルダーの意見を集約し、本学卒業生の実践的指導力の修得の程度を把握し、教職課程に反映させるよう図っていく。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本報告書の作成に当たっては、令和5年7月に開催された岡崎女子大学教職課程委員会において、次の手順にて進めることを確認した。

- 第1プロセス：岡崎女子大学教職課程委員会（全学組織）は、学長の意を受け、学内の教職課程の自己点検評価を行うことを組織決定するとともに、実施方針及び実施手順（自己点検評価の目標、実施組織、実施期間、実施対象を含む）の検討及びその決定を行う。
- 第2プロセス：岡崎女子大学教職課程委員会は、本学の教職課程カリキュラムやシラバス内容を含む教育活動の法令由来事項について点検する。また、必要に応じて、データ等の取り扱いについて、学科及び関係機関への意見聴取を行う。
- 第3プロセス：岡崎女子大学教職課程委員会は、教職課程の自己点検評価の進め方（観点や収集資料等を含む）を検討・協議を行う。
- 第4プロセス：岡崎女子大学教職課程委員会は、第3プロセスでの協議を経た後、教職課程の自己点検評価の実施手順（自己点検評価の目標、実施組織、実施期間、実施対象を含む）について最終確認を行い、学科会議に報告する。
- 第5プロセス：岡崎女子大学教職課程委員会は、定められた実施期間や報告提出締切期限を前提に、教職協働を基本とした役割分担のもと、対象項目の点検評価を行い、その結果を集約する。
- 第6プロセス：岡崎女子大学教職課程委員会は、集約した結果を点検し、学科への報告・協議を経て、大学としての全体評価を加え「教職課程自己点検評価書」を作成、完成させる。その確定にあたっては、学長への報告・協議を行い、承認を得た上で情報を公表する。
- 第7プロセス：岡崎女子大学教職課程委員会は、自己点検評価活動によって確認した課題を、大学全体の事業計画の一部として改善・向上に向け、実行計画を策定し、2023年度以降の Seiko G PLAN に加え、全学連携のもと改善・向上活動を進める。

V 現況基礎データ一覧

令和5年5月1日現在

法人名 学校法人 清光学園					
大学・学部名 岡崎女子大学・子ども教育学部					
学科・コース名（必要な場合） 子ども教育学科					
1 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数など					
① 昨年度卒業者数		67名			
② ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）		64名			
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も1と数える）		65名			
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）		13名			
④のうち、正規採用者数		7名			
④のうち、臨時的任用者数		6名			
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	9名	2名	5名	0名	1名
相談員・支援員など専門職員数			3名		